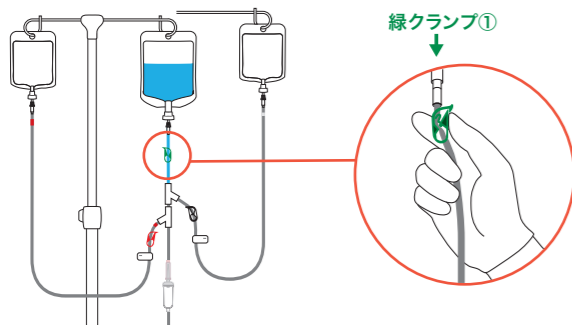


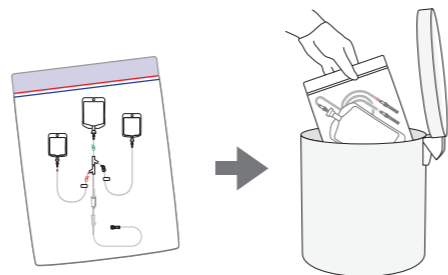
4. 廃棄

① 全ての投与が終了したら**緑クランプ①**を開放し、メインルート内を生理食塩液でウォッシュアウトしてください。



② HD*の入っていた輸液バッグは接続を外さず、アンティリークと一体のまま、ジッパー付きプラスチックバッグに入れて密封してから専用の廃棄容器に廃棄してください。
※HD・・・Hazardous drug(ハザードス・ドラッグ)

接続は外さず、一体のまま



FOLFIRI療法の場合

※記載の投与パターンは一例です。施設ごとのレジメンに基づいて投与してください。



AL-20F2/Y1/P2

① アプレピタントカプセル 1C

※イリノテカン投与開始1時間前に内服

メインルート

② 生理食塩液 250ml

③ グラニセロンデキサート 30分

⑥ 生理食塩液 250ml

④' レボホリナート 2時間 同時投与

Y

④' イリノテカン 2時間 同時投与

⑤ フルオロウラシル 15分

フラッシュ後インフューザーポンプに切り替え

患者様

販売元



〒651-0084 兵庫県神戸市中央区磯辺通2丁目2番16号 三宮南ビル7階
TEL: 078-414-8282 FAX: 078-414-8281
https://www.kbjapan.co.jp

製造販売元



〒327-0003 栃木県佐野市大橋町1647番地
http://www.fgm.co.jp

販売名: 輸液セット

製品名: アンティリーク

一般名称: 自然落下式・ポンプ接続兼用輸液セット

医療機器承認番号: 30300BZX00250000

クラス分類: 管理医療機器

ALYO-2023.12.27



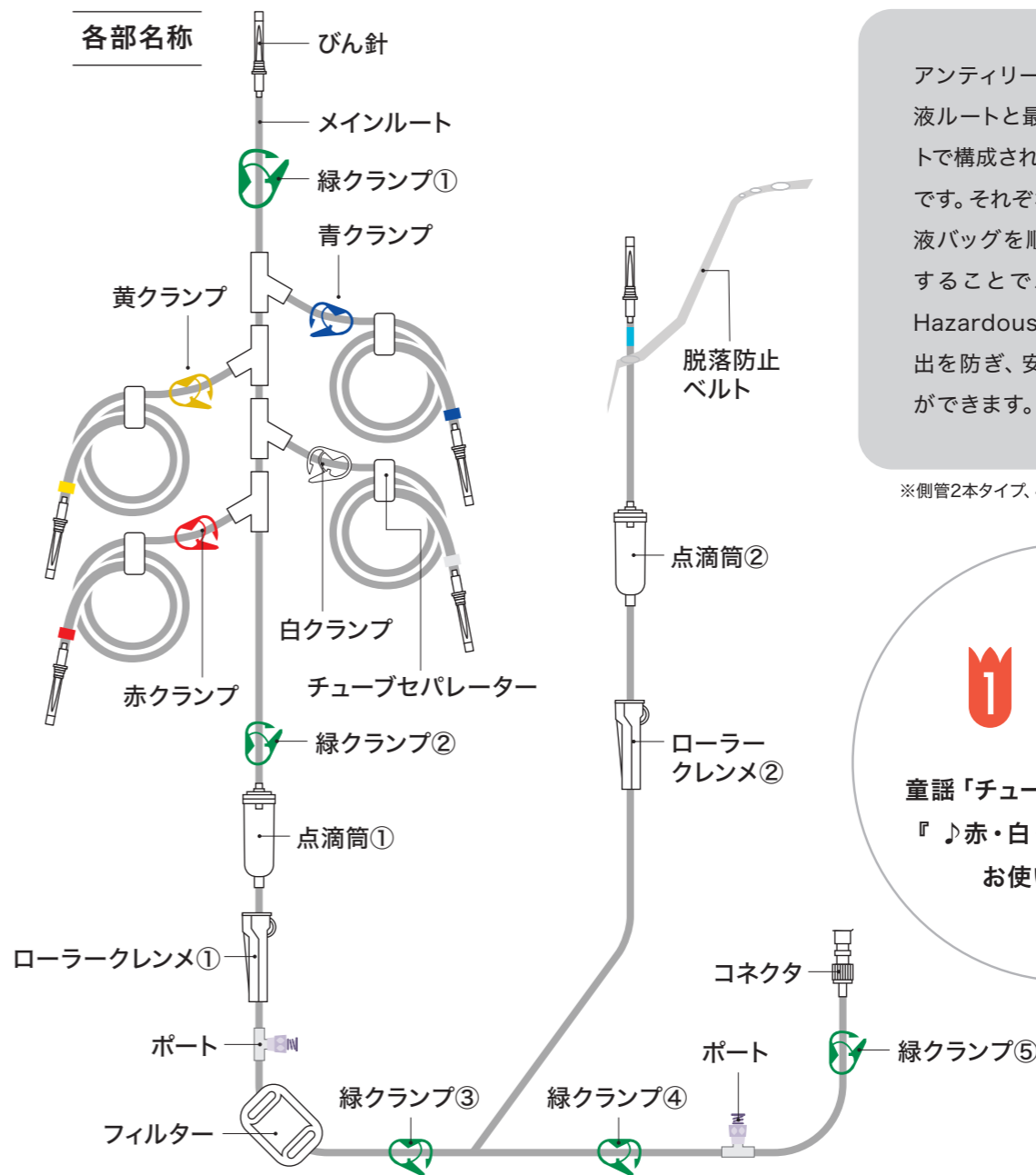
抗がん薬投与用 完全一体型輸液セット アンティリーク

操作ガイド

Y-type - 同時投与用 側管ルート付 -

お使いになる前に、この説明書をよくお読みのうえ正しくお使いください。
お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。

各部名称



アンティリーク®は、メインの輸液ルートと最大4本*の側管ルートで構成された一体型輸液セットです。それぞれの側管ルートに輸液バッグを順番につないで投与することでバッグ交換によるHazardous Drugs (HD) の漏出を防ぎ、安全に投与することができます。

※側管2本タイプ、4本タイプの二種類



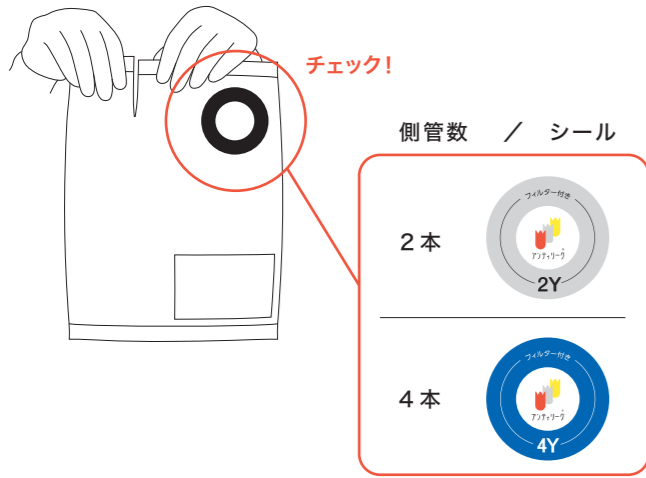
童謡「チューリップ」の歌にある『♪赤・白・黄色～』の順番でお使いください。

オートプライミングの操作ガイドを動画でご覧いただけます。

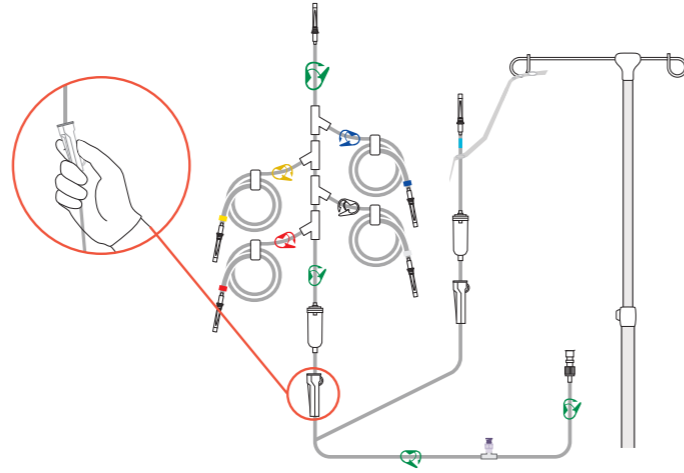


1. 準備

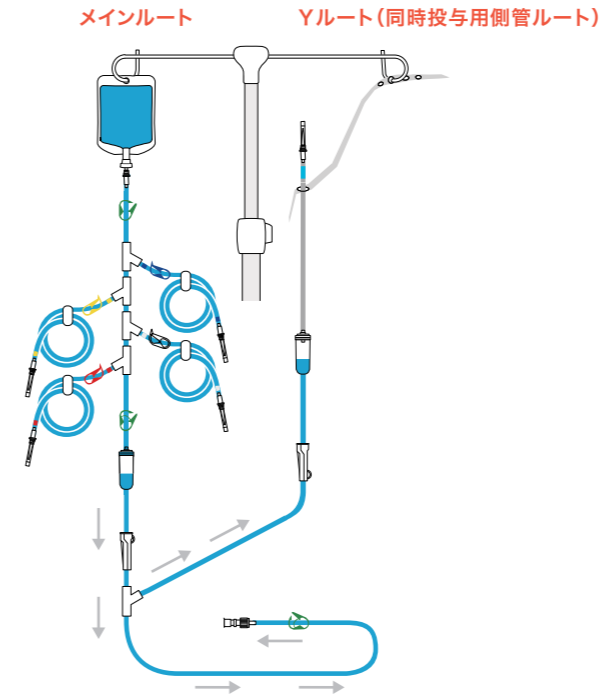
- 1 開封前に側管数およびフィルターの有無を確認します。



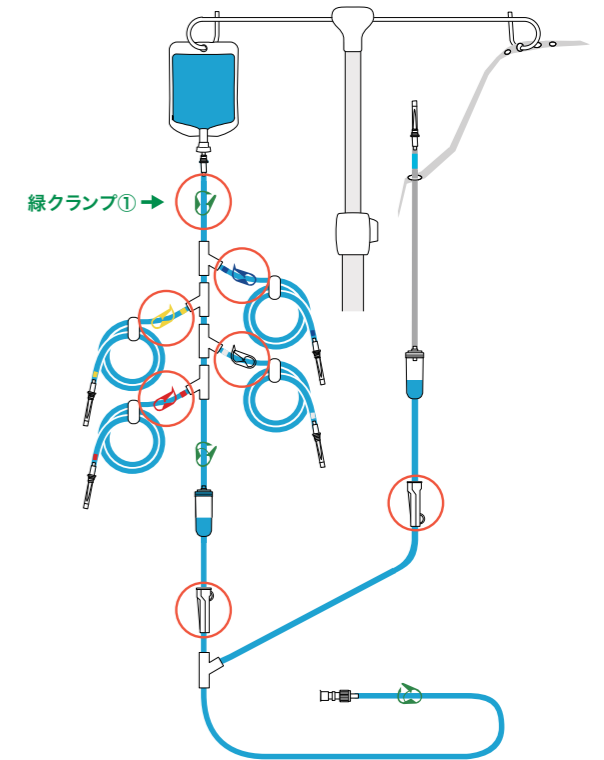
- 2 各側管キャップに緩みや脱落がないことを確認し、ローラークレンメ①のみを閉じてください。同時投与ルートの脱落防止ベルトを、スタンドアームに設置します。各側管ルートは、チューブセパレーターから外さずに準備してください。外れた場合は、はめ直してください。



- 5 自動的にすべてのルート内に生理食塩液が充填されます。Yルート（同時投与用側管ルート）は、点滴筒②内に半分程度生理食塩液が満たされたら、ローラークレンメ②を閉じて下さい。

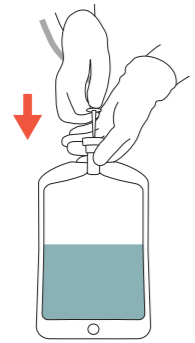


- 6 メインルートの緑クランプ①と全ての側管クランプ、ローラークレンメ①②を閉じてください。



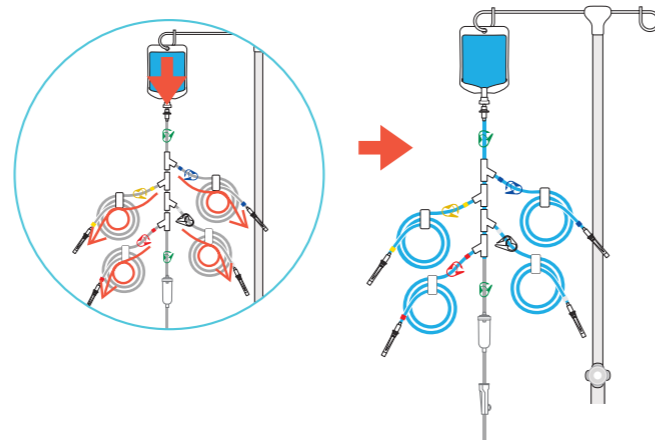
2. プライミング

- 1 メインルートのびん針を、生理食塩液の輸液バッグに上から下へしっかりと刺入してください。



目より下の位置で

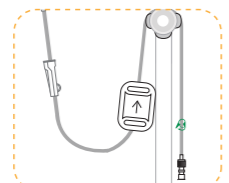
- 2 点滴スタンド等に輸液バッグを吊ると、上部側管ルートのプライミングが開始されます。



- 3 上部側管ルートのプライミングが終了したことを確認し、液溜まりを作るために点滴筒①を逆さにしてください。

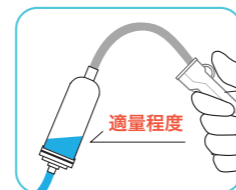
下図のようにローラークレンメを持つとスムーズです。

* フィルター付きの場合 *

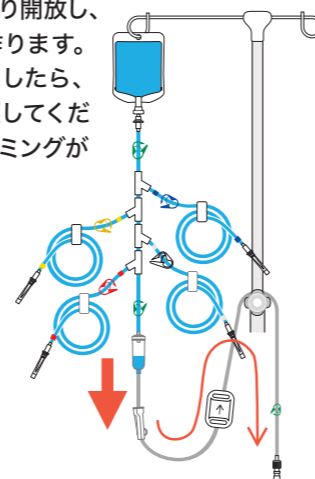


フィルター記載の矢印が上向きになるように保持したままおこなってください。

- 4 ローラークレンメ①をゆっくり開放し、点滴筒①内に液溜まりを作ります。三分の一程度まで溜まりましたら、点滴筒①をもとの位置に戻してください。下部ルート内のプライミングが開始されます。

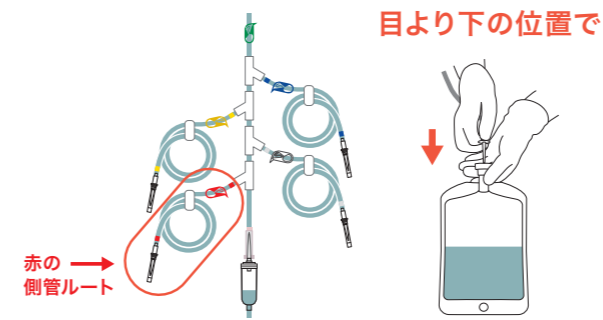


適量程度



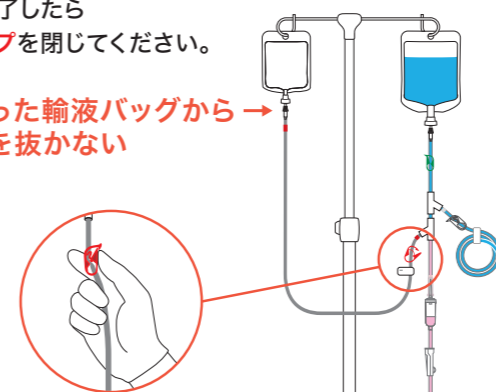
3. 投与

- 1 赤側管ルートから使用します。びん針キャップを外し輸液バッグにびん針を、上から下へしっかりと刺入してください。

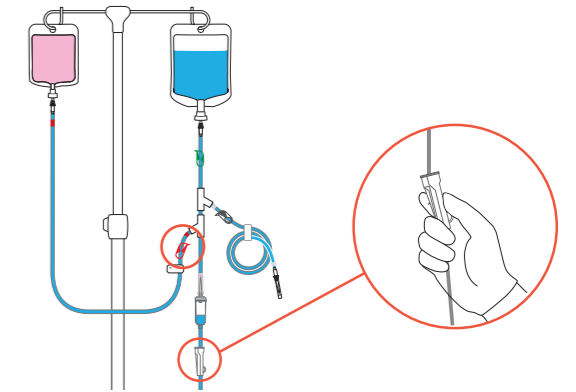


- 3 投与が終了したら赤クランプを閉じてください。

空になった輸液バッグから → びん針を抜かない



- 2 赤クランプを開放後、ローラークレンメで速度を調節しながら投与を開始します。



- 4 2剤目以降の投与がある場合は、『白、黄、青』の順番で同様にご使用ください。

